

2022年5月の行事予定表

1	日	礼拝式、洗礼式、聖餐式	16	月	
2	月		17	火	
3	火		18	水	
4	水		19	木	
5	木		20	金	
6	金		21	土	
7	土		22	日	礼拝式
8	日	礼拝式、役員会	23	月	
9	月		24	火	
10	火	山陽・四国地区牧師会	25	水	
11	水		26	木	
12	木		27	金	
13	金		28	土	
14	土		29	日	礼拝式
15	日	礼拝式	30	月	
			31	火	

5月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 思えばコロナ禍での春、YouTube 礼拝でのイースター（イエス・キリストの復活祭）そして教会総会は、2020年から三度目を過ごしました。毎週日曜日も、限られた人数で賛美も心の中で、という礼拝を続けています。
- ◇ こう書いていて、心の奥から響いてくるのは聖書の言葉です。『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。』（Iテロ1:5,16,17)。
- ◇ こういう時だからこそ、互いを喜び、互いのために祈り、互いを感謝するキリストの心で満たされたいと願います。
- ◇ 敬愛する土居遯子姉が天に召されました。ご遺族の皆様にご主イエス様の御慰めと励ましが注がれますようお祈りいたします。

教会月報

2022年5月

No.372

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

神の子とされる恵み

「イエスはお答えになった。『はっきり言うておく。誰でも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。』」 新約聖書・ヨハネ福音書3章5節

新緑が美しい季節を迎えました。また、百花繚乱というべき花々が咲き誇っています。そして、小鳥たち、とりわけ鶯の音がわたしたちの心に響き、そのさえずりは何と美しいことでしょうか！

さて、5月号の月報の巻頭言を記しています。今年の5月1日は日曜日・聖日です。この日に、洗礼(受洗)を志願された方がおられます。アジアのベトナム出身のG姉です。K.O.兄弟と結婚(2020年11月23日)され、すでにご長男(2021年8月21日)が誕生し、広島市に住まれ、ご家族3人で家庭を築かれています。

冒頭の聖書は、イエス様とニコデモの話です。イエス様は高齢期のニコデモに語られた意味は、人は自分の力で新しく生きようと願うかもしれないが、限りがあるというものでした。

しかし、神の業は決して人の思いつきではなく、神のなさる業であると教えられたのです。

本で行われる洗礼式は、二千年の歴史の中で小さな営みの一つでしょう。けれども、この働きは神の確かな意志のもと、聖霊の神の働きによって神の御心が完全にあらわされるのであります。

人は人生において罪を犯します。しかし、心から悔い改めて、主イエス(人間)をキリスト(神の子・救い主・メシア)と信仰告白する者には神の子・永遠の命に与る者としてくださるのです。

牧師 永松 清

2022 イースターおめでとう ございます！

4月17日(日)春らしい晴天。イエス・キリストのご復活を祝うイースター礼拝が行なわれ、会堂に集った15名の方々そして YouTube で礼拝された方々も信仰の喜びと共に、永松先生のメッセージ「復活のイエス」(マルコ福音書 16:1~8)を心に刻みました。礼拝後はエッグ・ハンティングをして皆さん楽しそうでした。新来会のFさん御一家4名も3週目の出席で賑やかでした。礼拝後は第一墓地にて墓前礼拝を行ないました。



私の新年度目標は！...

M.M 姉

月報4月号で子どもたちの言葉に励まされています。日ごろの教会では声を出せないで、体に心配があり、日毎の糧(週報)の聖書箇所を毎日声に出して読むようにしています。歳とともに体の弱さを覚えますが、続けていきたいことです。聖書 I コリント16:13, 14

M.O.兄

礼拝に皆様が、元気で会える日を楽しみに待ちながら祈ります!! 頑張りましょう。岡山のナザレン教会の皆さんへ兵庫の地からの挨拶を送ります!

S.O.姉

4月から週二日のパート勤務を始めました。ここ数年、「もう一度職業を持って社会と関わりたい」という思いを持っていました。それが、現実となりました。すべては神様の導きによるとしか思えない運びでした。仕事内容は、障害を持った方々への生活支援です。今はただ、多職種の

方々の働きかたが新鮮で感動しています。私の新しい生活が始まりました。早く一人ひとりの名前を覚え、必要な関わり方ができるよう頑張りたいと思っています。

S.M.姉

毎日讃美歌を歌うこと。讃美をすると聖霊に満たされ、元気が出ます。きっかけは、今年2月に岡山友の会でお世話になった友が103歳で召天しました。コロナでなかなかお会い出来ませんでした。亡くなる少し前まで

証し「母を天に送って」 H&N.D 兄弟

祈りの中で私たちを支えて下さった教会の皆さんに感謝申し上げます。母が教会の礼拝に出席出来なくなり早3年あまり、折に触れ母のことを気遣って下さる皆さんに様子を証しようと思っていた矢先の召天でした。95歳でした。

難病のオリーブ橋小脳萎縮症だった母は最終的に寝たきりになることが分かっていました。その中でキリストの信仰を持ったことは大きな支えでした。(月報2014年2月号に救いの証が載っています。教会のホームページから閲覧できます。)

博愛会の「みに」という介護医療院に入所してからは行き届いた介護を受けることができ、旧知の更井先生が毎日祈りに来て下さるなど大きな励ましを受けていました。このまま最期までと本人も私たちも思っていました。そこにコロナがやってきました。面会が出来なくなったので、看護強化型小規模多機能施設と自宅の



お元気だったそうです。告別式に参加しましたが、彼女が選んだ讃美歌に物凄く力をもらい、(ガリヤラの風かおる丘で、みめぐみゆたけき)など。

それから讃美歌を歌うようになりました。悲しいこと、試練があるとき、讃美したら神様がそばにおられることを感じます。私のお気に入りの讃美歌が見つければいいなと思っています。



双方で母をケアすることになりました。

2月頃から母の呑み込む力が衰え始め、話すことも出来なくなりました。それを知った子ども達が「下の子は、未だおばあちゃんに会っていない」と孫も連れて会いに来ました。その日、母はひ孫の姿に大きな声で笑い、孫娘の話に泣き、そして夕食を食べることが出来ました。しかし次の朝、高熱が出てそれから、こんこんと眠る日々でした。孫達に会ったその日、母は満足し「もう良い」と思ったのではないかと感じました。それから2週間後、静かに天に召されました。讃美し祈りながら最期の2週間を母と共に過ごせたことは、本当に感謝なことでした。亡くなった後もそのまま二晩家にいられたので穏やかに死を受け入れる良い時間となりました。

家族だけの葬儀にしたため、母を皆さんに会わせず送ることになり申し訳ありませんでした。とても穏やかないい顔でした。出棺の時、風が吹き、桜の花びらが舞いました。神様からの祝福だったのではないかと思います。

『(信じるものは)永遠の命を得、……死から命へと移っている。』
ヨハネ 5:24